

ぶんすい
分水地区
(新潟県燕市)

- 計 画 期 間 平成 18 年度～平成 22 年度
- 面 積 620 h a
- 交付対象事業費 2,458 百万円
- 市人口 77,687 人

ポイント 住み続けたい、訪れたい、文化と自然
にあふれたまちづくり

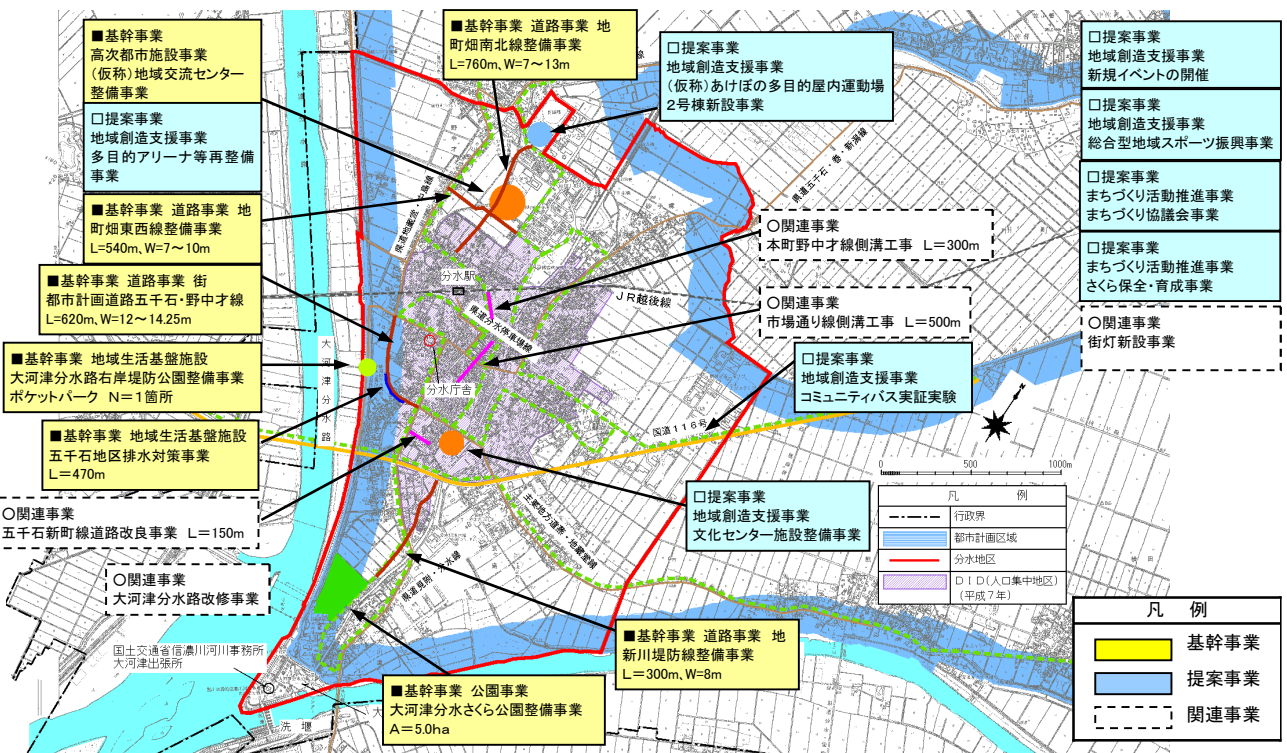
地区概要 中心市街地に接する利便性のたかい住環境、また魅力のある施設や自然環境の整備を整備するとともに自然を住民と協働で作る・維持する仕組み作り、定住と地域交流を促進する。

目 標 若い世代が定住するような、豊かな自然と調和や利便性、文化性の高い生活ができる住環境を形成する。

指 標 自然・住環境を整備することにより、地域の交流や魅力ある生活環境であるかを指標とした。

新築住宅着工数	33 件	(H16)	→	40 件	(H22)
文化センター来館者数	47,405 人	(H16)	→	48,500 人	(H22)
交流センター来館者数	72,992 人	(H16)	→	80,000 人	(H22)
多目的運動場会館者数	13,725 人	(H16)	→	15,000 人	(H22)
コミュニティバス利用者	0 人	(H16)	→	5,000 人	(H22)

事業内容 基幹事業 (1,851 百万円) → 道路 (5 路線 L=2,350m)、公園 (1 箇所 5.0ha)、ポケットパーク整備 1 箇所、排水路整備、地域交流センター整備
提案事業 (607 百万円) → イベント開催、コミュニティバス実証実験、スポーツ教室開催、多目的運動施設整備、まちづくり検討 等



完了地区
新潟県

地区の現況と課題

- ・活力を生み出す若い人々が安心して定住を図る場所が必要であり魅力ある自然環境を生かした住宅地が少ない。
- ・豊かな心を育てる文化施設等の拡充を図る。また健康な人を育てるスポーツ施設等の拡充を図る。
- ・人をひきつける魅力ある施設により広域交流を促進するとともに観光資源として活用する。
- ・地域の特徴である自然の活用が十分でないため、住民と協働でまちづくりを行うことが必要である。

提案事業の特徴

新規イベントの開催

新規イベントを開催し、住民相互の交流を促す。また、特色あるイベントを実施することにより、観光入り込み客の増加を図り、地域の活性化や魅力の増加につなげていく。

コミュニティバス実証実験

住民生活に必要な公共交通の効率的な運行体系を確立するため、駅及び公共施設と各地区を結ぶコミュニティバスを試験的に運行する。

総合型地域スポーツ振興事業

地域の学校施設や公共施設等を拠点に子供から高齢者まで地域住民の誰もが、それぞれの興味や目的に応じて気軽にスポーツに親しめる環境を整えた総合的なスポーツクラブの運営を図るとともに住民主体のスポーツ振興を図る。

まちづくり協議会事業

地域の特色を活かしたまちづくりを推進するため、各地域に住む住民自らが地域を考え、地域づくりを行えるよう、小学校区単位でまちづくり協議会を設置し、コミュニティの活性化を図る。

さくら保全・育成事業

分水のシンボルであり、地域住民の心のよりどころである大河津分水の約 3,000 本の桜並木を、次代に引き継ぎ発展させていくための保護・保全・育成活動を図る。

地域住民及び他の団体等との連携・協働により、桜並木の下枝伐採事業・桜苗木の植樹及び育成等を通じ、地域の自然環境保全に寄与するまちづくりを推進する。

計画策定プロセス

計画策定にあたり合併に伴う新市建設計画の策定と同時期なため同時に住民協議を行った。まちづくりビジョン住民会議におけるワークショップや自由討議が行われたほか各地区での住民説明会が行われ計画に対する意見が集約され策定されている。

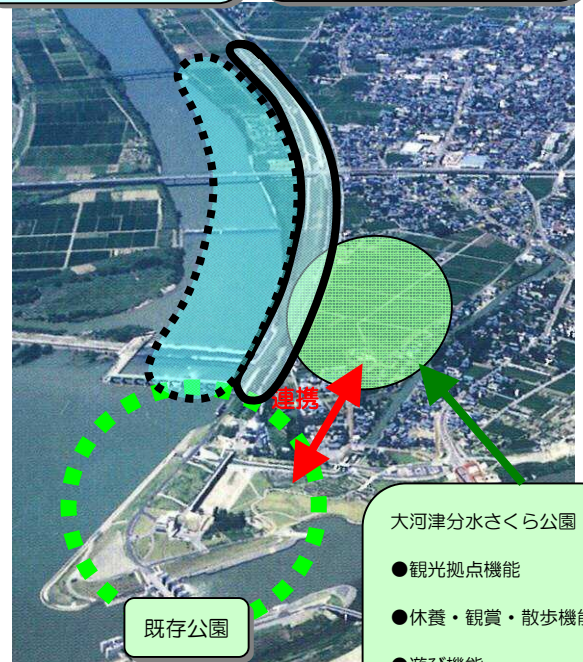
(住民会議は7回、説明会は分水地区で2回行われた。)

また、本計画の核となる大河津分水大規模公園については平成14年1月から10月までの間、住民代表14名とコーディネーター1名による大河津分水ワークショップを計9回開催し空間デザインが取りまとめられている。



大河津分水さくら公園周辺整備計画

- 観光拠点機能 (駐車場)
- 運動機能
- 環境保全機能
- 観光拠点機能 (桜まつり舞台)
- 休養・観賞・散歩機能
- シンボル機能



- 大河津分水さくら公園
- 観光拠点機能
- 休養・観賞・散歩機能
- 遊び機能
- シンボル機能
- 防災機能